

REPORTER'S EYE



【リポーター】
二ノ宮正子さん(東三ツ木)
今回は智光山公園の一角にある宿泊研修施設・智光山荘をレポートしました。

智光山荘は清潔で快適 旅行気分で一泊いかがですか



リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがらを、市民のかたがレポートします。
今月は、智光山公園の一角、勤労福祉センターの北側にある智光山荘をレポートしていただきました。
安さと環境の良さが魅力
県内でも有数の規模を誇る智光山公園、市民の憩いの場として親しまれ、皆さんも何度となく訪れたことがあると思います。その智光山公園の北側、勤労福祉センターの奥にある智光山荘を皆さんはご存じでしょうか。この施設は昭和55年に宿泊研修施設として建てられました。私も勤労福祉センターを会社の研修など

で何度も利用しましたが、その奥に智光山荘があることは知りませんでした。実際に伺ってみると、とても魅力的な施設でしたので、ここで紹介したいと思います。
智光山荘は昭和55年、主に宿泊研修を目的に建てられた市の施設で、10畳の和室が12部屋あり、1部屋5名の定員で60名までが宿泊できます。宿泊料金は、中学生以上の大人が4千500円、小学生が4千円(いずれも1泊2食付)です。また、40名ほどを収容できる研修室があり、会社の研修などで利用することが出来ます。利用については、1日を午前、午後、夜間の3単位(それぞれ4時間)に分け、料金は1単位1千600円です。もちろん宿泊の施設ですから浴場もあり、その一角には10名位が入れるサウナもあります。客室は5名で泊まるには十分の広さで、どこかの旅館にきているような感じのきれいな部屋で

した。職員のかたも「いつも清潔にし、気持ちよく利用していただけるように気を配っています」と話してくれました。
その努力のかいあってか、智光山荘が昨年行ったアンケートでは、「風呂・トイレ・客室がきれい」、「環境に恵まれ、施設も清潔で快適に過ごせた」など、利用した多くのかたが環境や施設の清潔さなどについては満足と答えてくださっているようです。中には、民間の高級旅館と同じようなサービスを望まれる利用者からの声もあるようですが、宿泊料金との兼ね合いもあり、「低料金で心温まるサービス」をモットーに、できることから実行していくように心がけているそうです。
智光山荘を利用するには、予約が必要利用6か月前から前日まで、電話で確認した後に予約金(1人1泊1千円)を直接または現金書留で支払うことになっています。
6~8月ごろは、花菖蒲祭りや夏休みのため家族連れで賑わい、体育館や動物園に行ったり、虫採りなどをしているようです。お子さんをお持ちのお父さんお母さん、狭山の自然に囲まれた智光山公園にある智光山荘を一度訪れてみてください。昼間は緑豊かな智光山公園で楽しんで、夜は智光山荘でのんびり、なんて、ちょっとした旅行気分を味わうのもいいと思いませんか。



下広瀬800-53-6677(毎月第1・3・5日曜日
は休み。この日の前日は宿泊できません)

Opinion コーナー

VOL.31



白井英幸さん
(入間川)

教え子たちの頑張りが 私のげんきの源です

私は一昨年まで北海道の中学校で教員をしていましたが、赴任当初は膝を交えて語れる友人もなく寂しさを感じざるを得ませんでした。そんな私の励ましとなってくれたのは、ほかならぬ元気な生徒たちでした。もちろん、ときには子供たちには大いに悩ませるかもしれませんが、私が住んでいた地域では高校を卒業すると半数以上の生徒が進学や就職のため街を離れるのですが、このうち何名かが4月に就職のため東京にやって来ます。彼らと話してみる

と、やはり東京での生活に不安が隠せない様子でした。私に何ができるという訳ではありませんが、以前私が励まされたように、今度は少しでも彼らの役に立つことができればと思います。また、彼らが頑張っていると思うと、「負けるものか」とこちらにも勇気が湧いてきます。日々学校で悪戦苦闘している先生方も、教え子たちの活躍を耳にするにつけ元気づけられているかたも大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。その意味で生徒たちに君たちの頑張りが私たちの元気の源になっているんだよ、ということが言いたいのです。
これからは彼らとは、教師と教え子というより一人の人間、人生のライバルとして、ときには励まし、時には励まされながら付き合っていくかと思っています。

HOBBY

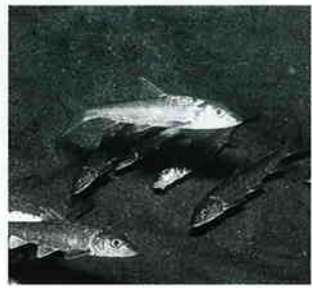


島崎英治さん(北入間)

長編小説

島崎さんはお店を経営する傍ら、5年前から小説を書いています。初めて書いた作品が立正大学の鏡味先生の目にとまり、それから二年間、大学の同人誌に小説を掲載しました。その後は狭山台文書研究会に参加し、仲間たちと学習を重ね、「おれはドラマを書く」という意欲のもと、平成7年、昭和初期の芸妓の世界を描いた『白蛇の舞を文化書房博文社から自費で出版し、現在は二作目の長編小説『京都上七軒物語』を執筆中です。取材を重ね、実話をもとにした島崎さんの小説、皆さんも一度読んでみてはいかがでしょうか。

狭山の生態系シリーズ⑭



撮影：奥生保協同会狭山支部
高橋昇さん(中新田)

ニゴイ

体長は40cmで産卵期は4~6月ごろ、繁殖期のオスは全身に黒みをおび、鼻先や胸びれの前端に追星が現れます。本州、九州の北、中部、四国など平野の湖や大きな川に生息し、小石の底を好み、水生昆虫や貝類を食べます。小形のものには群れ、大形になると深みにうつります。ゴイに似ていますが、顔が長くキツネのようにみえるところや、背びれが短い点などで区別できます。琵琶湖ではマジカ、大阪ではキツネゴイとも呼びます。

エネルギー 狭山の企業⑭



吉田製薬株式会社狭山工場
南入間951

創業以来設備の充実とレベルアップを計り、 高品質で安心して使用できる医療用医薬品を提供

吉田製薬株式会社は昭和24年に創業し、昭和35年、南入間工場を建設、その後もGMP(医薬品の製造管理・品質管理に関する基準)に適合するため設備の充実・レベルアップを計りました。同社は「医薬品の基礎で必須のものである局方医薬品を中心に製造するなかで、医療の高度化とニーズの拡大・多様化した感染などに対応するため、多種の殺菌消毒剤や滅菌剤の供給・開発に力を注いでいます。品質管理の点では、高品質を保証するため高度な分析機器を導入し、ユーザーのあらゆる要求に答えられるようにし、製造環境についても空気中の微粒子、微生物などの特殊フィルターによる制御・製剤に使用する水も高度に精製された純水の使用など、ハイレベルの品質を保証し、安心して使用できる製剤を提供しています。